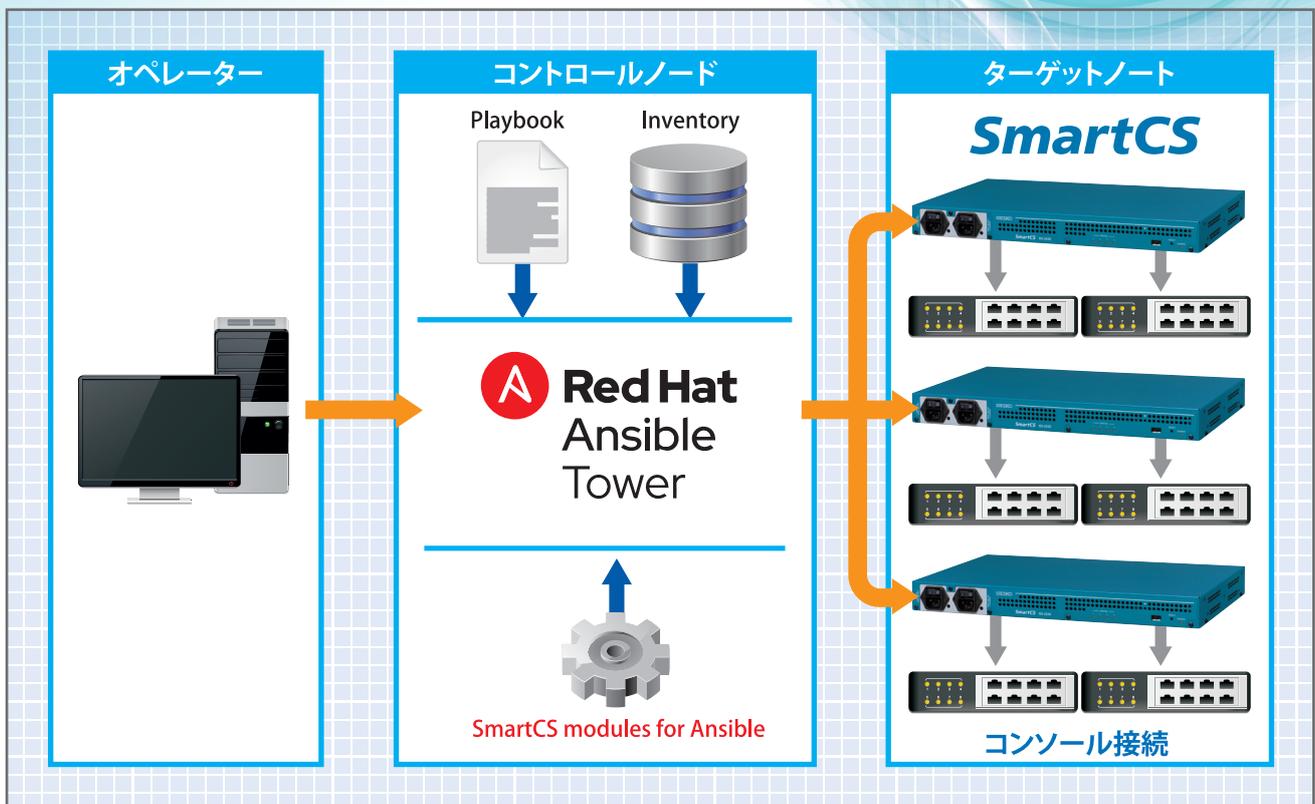


コンソールサーバー

SmartCSから はじめる運用自動化

Ansibleとの連携で一歩進んだ運用自動化を実現！

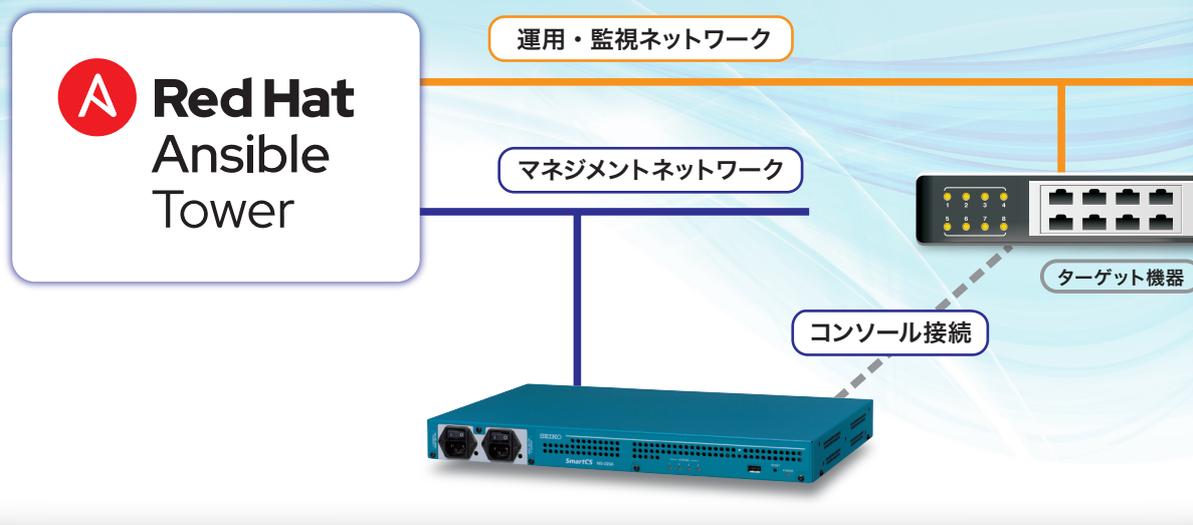


SmartCSのAnsible対応メリット

- IPリーチャビリティのないターゲット機器も運用自動化の対象に！
- Ansibleモジュールのないターゲット機器も連携が可能に！
- Ansibleからターゲット機器のコンソールアクセスが可能に！
運用自動化環境でもライフラインを提供！

SmartCS × Ansible ユースケース

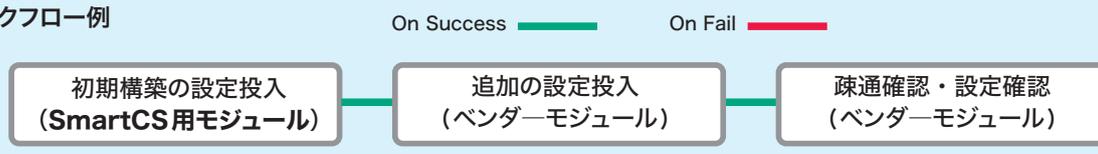
構成



ケース ① 初期構築 (設置時・交換時)

ネットワーク機器の設置時や交換時に、コンソール経由でIP設定をはじめとした初期構築を行います。IP設定後疎通確認までを行うことで、設置・交換後の設定投入の自動化を実現します。また、ターゲット機器が遠隔地にある場合、現地駆けつけやオペレーター常駐の省力化を実現します。

ワークフロー例



ケース ② お手軽ZTP (Zero Touch Provisioning)

SmartCSとAnsibleさえあれば、環境構築に必要なサーバー (DHCP、TFTP) を用意することなく、ZTP環境を構築することができます。また、PDU製品と組み合わせることで、電源制御についても自動化を実現できます。

ワークフロー例



ケース ③ 監視用途

運用・監視ネットワークでターゲット機器の状態を定期的に確認することで、障害が発生した際の検知、及び、情報取得 (一次切り分け情報等) についてのオペレーションを自動化することができ、トラブルの早期解決に役立てることができます。

ワークフロー例



※SmartCSはセイコーソリューションズ株式会社の登録商標です。※Red Hat, Ansible, Ansible Tower、またそれぞれのロゴマークは米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.およびその子会社の商標または登録商標です。※その他、本文中に記載されている会社名、製品名などは、各社の商標または登録商標です。

セイコーソリューションズ株式会社

ネットワークソリューション本部

〒261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8

【TEL】043-273-3184 【E-mail】support@seiko-so.co.jp

最新情報をいち早くお知らせ。● <http://www.seiko-sol.co.jp/>

1909-SS01-1SW(VF)